

1905
シリーズ⑦
百周年を
迎えて
2005

学校の周辺は野原が続いて、すごい田舎へ行くような感じでしたね。

わかれて(笑い)、国文科の方が選ばれたんです。

ました。エレキギターが流行りだした頃で、生バンドがグループサウンドやビートルズの曲を演奏するんです。よく学生主催のダンスパーティーの切符が回ってきたんですが、華やかでしたね。

ら必ずボレロをはおりなさいと。肌を出すことにに関しては厳しく言われましたね。それで学校が近くなるとボレロを着ていました。でも真面目で品行方正でしたよ。喫茶店に寄ることもなくまっすぐ帰宅していました。

思い出の先生は和裁の神谷(い代子)先生、当時としては珍しく尺ではなくセンチで教えていただきました。それと講師で来ていらした洋裁の岩瀬ひろ先生。私は教職課程を取っていたのですが、とてもお世話になりました。

短大での一番の思い出は学祭、特にダンスパーティーです。私は高校の同級生をたくさん呼びましたが、他大学の男子学生も自由も出入りしていた

な格好をしていました。既製服は少なかったため、雑誌から切り抜いた最先端のモードを自分で作ることもありました。当時はノースリーブが流行っていました。先生方は通学に着るな

ほかに印象深いのは北海道への修学旅行です。汽車、バスと移動が多くて、最後の五稜郭ではフラフラでした。途中で大きな蟹が一人に杯ずつ出たのですが、大きすぎるのと疲れとで食べ切れませんでした。仲の良かったお友達と3人で九州へ卒業旅行へ行ったのも思い出深いですね。

父が貿易商でしたので、英語を身に付けていざれば海外へ行きたいと思っていました。そのためほかの大学の英文科を受験したのですが落ちてしま

短大での一番の思い出は学祭、特にダンスパーティーです。私は高校の同級生をたくさん呼びましたが、他大学の男子学生も自由も出入りしていた

な格好をしていました。既製服は少なかったため、雑誌から切り抜いた最先端のモードを自分で作ることもありました。当時はノースリーブが流行っていました。先生方は通学に着るな

卒業後は洋裁学校へ通った後、父の会社で1年弱仕事をし、22歳で結婚しました。娘が3人います。

は違和感がありましたね。担任は1、2年を通して食物コースの山路(路子)先生でした。食物の授業で買い出しに行くことがあるのですが、星が丘駅近くにあった中村というスーパー、今のレクサスのある場所ですが、そこで買い物をしたのを覚えています。自宅は北区で、バスで栄まで行き、地下鉄に乗り換え。地下鉄は当時、東山が終点でしたので、そこから学校までは再びバスに乗りました。

父が貿易商でしたので、英語を身に付けていざれば海外へ行きたいと思っていました。そのためほかの大学の英文科を受験したのですが落ちてしま



愛知淑徳短期大学第4回卒業生
(昭和40年度卒業)
隅川 寛子さん(旧姓: 野村)

昭和20年生まれ。現在60歳。
愛知淑徳短期大学家政科被服コース入学。
短大卒業後、名古屋ドレスメーカー女学院、金城ドレスメーカー女学院に進む。
昭和42年、結婚。短大在学中の小唄に続いて、昭和53年から長唄を始め、昭和56年、名取となる。現在、杵屋彌之友の名取名で寛扇会を主宰し、朝日カルチャーセンター講師として活躍



2年に進級した時のクラス写真。
昭和40年7月、体育館で撮影

昨年10月に今池のガスホールで長唄の会を開催。
前列の黒紋付きが隅川さん

ダンスパーティーに最先端のモード…。

振り返ってみれば楽しい2年間でした。

1905年(明治38年)創立の愛知淑徳学園は、昨年100周年を迎えました。女性の高等教育への意欲の高まりに迎え、学園は昭和36年に短期大学を開学。当初の家政科(被服と食物の2コース)に加え、昭和39年に国文科、40年に英文科を設置し、3学科を備えた短期大学に進展します。卒業生に学園での思い出を語っていただくシリーズの第7回は、短期大学第4回卒業生の隅川寛子さんに登場していただきました。



卒業式の日、卒業証書を手にした隅川さん。現在の中・高管理棟前で撮影



被服コースには、いつも朗らかで素晴らしい性格の同級生がいて、彼女のようになつてほしいと、末の娘に彼女の名前を付けたんですよ。その三女が長唄をやっています。淑徳での学校生活を振り返ってみると楽しい2年間でした。(談)

伯母が小唄の家元で、短大在学中から行儀見習いを兼ねて習っていたのですが、伯母が亡くなりお稽古もやめました。家にいるだけではつまらないと思っていたら、主人がカルチャーセンターの長唄を勧めてくれました。十代目杵屋彌十郎先生に師事し、以来30年近く続けています。歌はずっと好きですね。助手から講師に昇格し、今はお弟子さんもいます。

卒業後は洋裁学校へ通った後、父の会社で1年弱仕事をし、22歳で結婚しました。娘が3人います。

伯母が小唄の家元で、短大在学中から行儀見習いを兼ねて習っていたのですが、伯母が亡くなりお稽古もやめました。家にいるだけではつまらないと思っていたら、主人がカルチャーセンターの長唄を勧めてくれました。十代目杵屋彌十郎先生に師事し、以来30年近く続けています。歌はずっと好きですね。助手から講師に昇格し、今はお弟子さんもいます。